

飛騨圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1		高山赤十字病院	高山市	<p>【現状、特徴】 飛騨圏域唯一の三次救急医療機関であり、高度急性期及び急性期機能は強化・維持していくとともに、回復期及び慢性期機能は他病院と役割分担を図りながら、地域医療に貢献する。</p> <p>【課題】 ・急性期治療後の受皿となる後方支援施設(介護・福祉含)が乏しく、高齢・独居で在宅退院も困難な方が多い地域である。 病床機能について、院内完結型と地域完結型を模索しており、地域医療機関との役割分担が必要だと考えており、高山市を中心に関係医療機関と協議を行う。 ・当院付帯施設に介護老人保健施設を有しているが経営状況も厳しい状況が続いている。 ・病院および老健施設の建物の老朽化が著しく、新病院建設は喫緊の課題である。現在、地域有識者との協議会を設置し、新病院建設に向け検討を行っている。 ・医師、看護師等の人材の安定確保が課題である。 当院付帯施設に介護老人保健施設を有しており、その下支えをしているが、経営状況も厳しい状況が続いている。 建物の老朽化が著しく、新病院建設は喫緊の課題である。 今年度、地域有識者との協議会を設置し、新病院建設に向け具体的な検討を行う予定である。</p>	<p>・高度急性期及び急性期機能を中心とした機能 ・救急、周産期、小児、がん医療などの政策医療に係る機能 ・地域医療及びへき地医療支援、災害拠点病院に係る機能</p>	○	実施済み		○			<p>・地域医療構想の意向に沿い、令和3年4月に許可病床を78床削減した。 ・高山市と飛騨地域の中核病院と今後の連携について協議を継続する</p>
2	変更	岐阜県厚生農業協同組合連合会飛騨医療センター久美愛厚生病院	高山市	<p>【現状、特徴】 ○救急告示病院、第二種感染症指定医療機関、へき地医療拠点病院、及び地域災害拠点病院の各指定を受け、飛騨医療圏域の中核病院として医療の提供をしています。特に、循環器内科分野、消化器外科分野においては、充実した医療を提供しています。また、ヘリポートを敷地内に常設しているため、高度治療を行う病院との連携も可能です。 ○訪問看護ステーションおよび一般急性期病床から転換した療養病床(11月より)において、積極的治療が終了した患者に対する体制を整備しています。 ○飛騨医療圏域で唯一のPET-CTを整備しており、がん診療においても大きな役割を担っています。 ○保健予防活動である各種検診等を広域な飛騨医療圏全域で実施しています。</p> <p>【課題】 ○医師確保 常勤医師減少と後任医師が不足しているなか、地域の現状やニーズ、要望を把握し、公的医療機関としての役割を踏まえつつ、それに応じた医療提供体制を継続すること。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたが、改正感染症法を踏まえ、地域の感染症病床と結核病床を有する医療機関として、機能維持と診療の充実が責務であると認識しています。当院の強みである健診事業の充実、急性期から回復期、慢性期を経た在宅医療までの「地域完結型」の医療を支えることで、地域住民に安心して安全な医療を提供します。 また、地域の救急医療を担う紹介受診重点医療機関として、近隣の医療機関との連携強化を図る必要があります。</p>	実施済み	実施済み	実施済み	実施済み			<p>令和5年11月に、医療療養病床57床とする病床再編、産科の廃止を行いました。また、併せて急性期機能については縮小(緩和ケア病棟は廃止、一般病棟にて対応)しました。冬期の感染症や循環器系疾患の増加、凍結・積雪による外傷疾患の増加による病床の不足が懸念されますが、回復期機能病床との連携により対応する予定です。 また、緩和ケアを必要とするがん患者についてはフレキシブルに対応し、訪問看護ステーションとの連携も図ることで、患者のニーズに沿った医療を提供します。</p>
3	変更	社団医療法人 古川病院	飛騨市	<p>【現状、特徴】 飛騨市、飛騨地域の血液透析患者さんの受入れ、リハビリステーションが可能な慢性期病床と考えています。</p> <p>【課題】 介護療養病床の廃止に伴う変更について考慮中です。</p>	<p>介護療養型医療施設から介護医療院に転換準備中です。</p>		○				<p>介護療養型医療施設から介護医療院に転換準備中です。 医療療養病床17床⇒20床 介護病床38床⇒35床</p>	

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
4		国民健康保険飛騨市民病院	飛騨市	<p>【現状、特徴】 当院は直近となる高山市の二次救急医療機関まで距離にして33km程、車で45分の位置にあり、市内の最も遠い集落からは60kmの距離となるため、当院が二次救急を担う必要性は明らかである。また、高度急性期を脱した患者の転院を受け入れ、急性期から回復期を経て在宅復帰を支援する機能とともに、慢性期の患者が安心して療養できる環境が求められる。</p> <p>【課題】 当院の診療圏の飛騨市神岡町と高山市上宝町及び高山市奥飛騨温泉郷を含めたいわゆる「高原郷」は、飛騨二次医療圏内でも突出して高齢化の加速と人口減少による医療需要の変化が生じている。加えて、常勤医師を始めとする医療職種の確保、更には令和5年度(2023年度)で築33年となる施設の老朽化への対応が必要な状況である。</p>	<p>地理的要因から救急医療と急性期病床の一定の需要に応えつつ、当院が推奨する嚥下療法である完全側臥位法の普及とともに地域包括ケアのより強固な体制を整えることで、多くの患者の希望でもある在宅復帰を支援するための回復期病床の比率を高めていく。</p>	○	実施済み					<p>病床機能については、回復期病床の比率を高め急性期からシフトしていく。 病床数は令和3年1月1日に10床の削減を実施済みであるが、令和6年4月に予定される診療報酬改定の動向を見極めつつも回復期機能の強化を計画しており、それに伴って必要となる面積要件に応じて更に4床の減床を予定している。</p>
5		下呂市立金山病院	下呂市	<p>【現状、特徴】 ・入院基本料 急性期一般入院料5/療養病棟入院料1 ・圏域の医療資源の問題で、急性期から慢性期までカバーしている。 ・5疾病のうち、所属医師の専門範囲(主に消化器)のがん治療、糖尿病の早期発見、予防に力を入れている。 ・5事業のうち、救急医療、へき地医療に重点をおいているが、総合医療にも対応している。</p> <p>【課題】 当院の位置する下呂市金山地域は高齢化率も高く(45.7%/令和4年6月1現在)、今後も独居、高齢世帯が増える見込みであるため、現状の医療規模を維持することが重要となってくる。加えて、コロナ禍に様変わりした患者動向に対するコロナ後の対応や、慢性的な医療スタッフ不足の解消などに取り組む必要がある。</p>	<p>周囲30km圏内に病院がないことから、急性期病院としての機能を維持し、かつ、地域を包括的・継続的に支えるヘルスケアのハブ機能を有する病院として、地域の人々のニーズに応えていく。</p>						○	<p>本年度の公立病院経営強化プランの策定作業の中で、十分な議論に至っていないため。</p>
6	変更	岐阜県立下呂温泉病院	下呂市	<p>【現状、特徴】 ・地域の中核病院、「へき地医療の拠点病院」として生活の場の医療を県立病院の立場から創設し、地域住民及び県民から信頼され、必要とされる病院づくりを目指している。 ・大規模地震災害時においても診療機能を維持・確保するために地下免震構造を導入している。 ・ヘリポートを整備し、救急受入時間の短縮やドクターヘリによる高度急性期病院への転院搬送が可能である。</p> <p>【課題】 ・医師確保対策を充実するとともに、県立病院としての役割及び機能を継続しつつ、地域の医療ニーズに応える必要がある。 ・人口減少、少子高齢化に伴う患者ニーズの变革に対応するため、飛騨圏域全体として地域住民、行政、医療関係者等による合意形成をいたうえで、それぞれの医療機関の役割分担等を検討していく必要がある。</p>	<p>・へき地中核病院として、現状の医療体制の維持・継続及び不採算・特殊部門に係る医療の提供を行うとともに、急性期医療の提供と地域包括ケア病棟、回復期病棟及び療養病棟を有効活用して在宅復帰に向けた支援を実施する。 ・飛騨圏域は、広大な面積を有するにもかかわらず医療機関数が少ないことから、都市部のように医療機関ごとで機能を特化し、機能の分化・連携を強化する医療提供体制の構築は困難であるため、当院の取組みと併せて限られた医療資源を有効活用できるように、近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化を図っていく。</p>	実施済み	実施済み					<p>・病床数の見直しについては、新病院建設時に255床から206床に減床を実施済みである。今後も飛騨圏域南部における基幹病院及びへき地中核病院として運営するためには必要な病床数と考える。 ・なお、少子高齢化等が著しい下呂地域における医療需要に応えることが可能となるように、R5.8.1から地域包括ケア病棟の一部(38床)を療養病床に変更した。</p>

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
7		ナチュラルクリニック21	高山市	【現状、特徴】 アトピー性皮膚炎のステロイドを使用しない入院治療に特化しており全国から入院してきている。地域においては肺炎、心不全、肺炎等の急性期入院を受け入れている。 【課題】 今後も当院の特徴であるアトピー性皮膚炎の治療に重点を置き発展させていきたい。地域医療においては診断精度を高めたい。	科学的エビデンスに基づいたアトピー性皮膚炎の療養を発展させ医療の先進性に寄与したい。							○	アトピー性皮膚炎の療養を発展させ医療の先進性に寄与したい
8		光華眼科医院	高山市	【現状、特徴】 特にありません。 【課題】 特にありません。	白内障手術を高齢者に向け粛々としていきます。							○	小規模の眼科医院ですので、入院施設はありますが、主に遠方の方向けの施設の為、現状のままで良いと思います。
9		アルプスベルクリニック	高山市	【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。 ◆診療実績 月平均分娩数=32.0件（2022年1月～6月実績） 【課題】 特になし	分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えています。							○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要としていないため。
10		医療法人下呂温泉溪泉会 黒木医院	下呂市	【現状、特徴】 病床休止状態 【課題】 スタッフ確保困難	人口減少により入院病床の役割は無くなりつつある							○	いざという時の後方施設として維持
11		村瀬眼科クリニック	下呂市	【現状、特徴】 下呂市は眼科医療を受けれる施設は少ないです。このため当院では地域の皆様に貢献できるよう、眼科医療全般を行っております。 【課題】 重度の眼科疾患は紹介が必要となりますが、遠方への紹介となるのが課題です。	今後も地域の皆様に貢献できるように眼科医療全般を行っていきます。							○	下呂市は眼科医療を受けれる施設は少ないため
12	変更	下呂市立小坂診療所	下呂市	【現状、特徴】 下呂市北部地域(旧小坂町)の唯一の医療機関であり、老人保健施設を併設しています。小坂地域の高齢化率は47.2%(R5.6末)となり、市内一高い高齢化地域のかかりつけ医という役割を果たしています。 【課題】 医師確保が課題となっています。自治医大卒業医師を派遣いただき診療が成り立っています。そのため、地域のかかりつけ医ではありますが、かかりつけ医が数年おきに異動する現状にあります。	地域のかかりつけ医として、主体的に在宅医療に取り組む						○	療養病床14床については、令和6年4月1日から介護医療院に転換します。	